

報道関係各位

株式会社東京ドーム

お化け屋敷プロデューサー五味弘文 恐怖の20周年

お化け屋敷の人形倉庫 **恐怖の20周年**

17時以降はさらに恐ろしい【超・絶叫篇】が登場

東京ドームシティ アトラクションズでは、2012年7月20日(金)～9月17日(月・祝)の期間、毎年恒例の夏期限定お化け屋敷を、『お化け屋敷の人形倉庫』と題して開催します。

「後樂園ゆうえんち」時代の1992年からお化け屋敷の制作・演出を手がける、お化け屋敷プロデューサー・五味弘文氏の20周年記念企画として〈お化け屋敷の裏側〉をテーマに、16時までの[絶叫篇]と17時以降の[超・絶叫篇]と昼夜で異なる演出を展開します。

お客様は「ある約束」を果たすために、入口で渡される「人形の目」を倉庫に眠る「幽霊人形」に入れなければなりません。さらに、[超・絶叫篇]では17時以降に開くドアの先へと進み、井戸の水の中から「二つ目の目玉」を拾い、人形に入れるという恐怖が加わります。果たして無事に倉庫から戻ることができるのでしょうか…。

【開催概要】

◎タイトル：お化け屋敷プロデューサー五味弘文 恐怖の20周年『お化け屋敷の人形倉庫』

◎開催期間：2012年7月20日(金)～9月17日(月・祝)[60日間]

◎開催時間：[絶叫篇]開園～16:00/[超・絶叫篇]17:00～閉園

※[絶叫篇]と[超・絶叫篇]で演出が一部異なります。

※混雑状況により受付終了時刻が変更になることがあります。

◎開催場所：東京ドームシティ アトラクションズ

◎料金：800円 ※[絶叫篇]はワンデーパスポート利用可

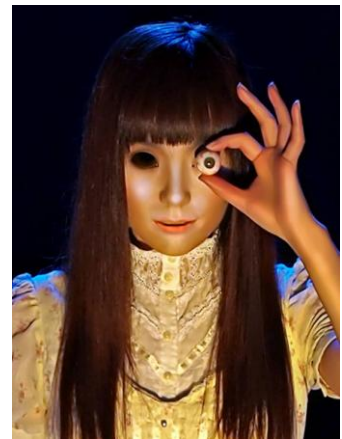
◎入場規定：6歳以上

◎テーマ：〈お化け屋敷の裏側〉

◎企画・制作：(株)オフィスバーン

◎プロデュース：五味弘文氏

◎URL：<http://obakesoko.com>



【イメージビジュアル】

東京ドームシティ アトラクションズ

所在地：文京区後楽1-3-61

営業時間：10:00～21:00

※7月21日(土)～31日(火)は10:00～22:00

8月1日(水)～31日(金)は9:30～22:00

料金：入園無料

ワンデーパスポート大人3,800円、シニア・中人3,300円、小人2,000円、幼児1,200円

アトラクション単券400円～1,000円 ※一部アトラクション休止中

お客様からのお問い合わせ先：東京ドームシティ アトラクションズ TEL. 03-3817-6001

ストーリー

この倉庫の中に、一体だけ使われていない幽霊人形が眠っています。
それは、今から20年前に作られた人形です。その幽霊人形には、目が入っていません。
その人形は、“井子(しょうこ)”という若い女性から型を取ったものでしたが、人形に目を入れる直前に、“井子”は亡くなってしまいました。それは、彼女の20歳の誕生日のことでした。

彼女が亡くなったとき、恋人はあることに気がつきました。
彼女の顔からほくろが消えている・・・。
不思議なことに、人形の顔にはほくろが浮かび上がっているのです。
これでは、まるで生き人形です。
そんな人形を使うのは忍びなく、人形はそのまま倉庫の奥にしまわれ、そのお化け屋敷のプランも、封印することになりました。
それでも、彼女の恋人は人形でもいいから彼女に会いたいと願い、約束を交わしました。

20年経って、人形が彼女の年齢に達したら、一度だけ目を入れてみようかと・・・。

設定

絵画でも、人形でも、「目」を入れると生命が宿ると言われます。

あなたは入口で、「人形の目」を受け取ります。
あの約束通り、“井子”の人形にそれを入れてこなくてはなりません。

倉庫の中には、多くの幽霊人形が眠っています。
袋に入っているもの、箱にしまわれているもの・・・
それらを開けながら、あなたは彼女の人形を探さなくてはなりません。
ようやく彼女の人形を見つけ、^{がんか}眼窩に「目」を入れると・・・

【超・絶叫篇】 ※17時以降には異なる演出となり、更なる“絶叫”の世界を体感していただきます。

『お化け屋敷の人形倉庫』の奥には、17時にならないと開かないドアがあります。
17時になるとそのドアが開き、[超・絶叫篇]が始まります。

[超・絶叫篇]では、二つの「人形の目」を“井子”の人形に入れなければなりません。
二つ目の目玉は、ドアの奥にある井戸の中に入っています。

井戸の底にはまだ水が少し残っています。あなたはその水の中に手を入れて、
沈んでいる目玉を拾い上げなくてはなりません。

そこには、どんな恐怖が待っているのでしょうか・・・

【お化け屋敷プロデューサー】

東京ドームシティ アトラクションズのお化け屋敷を「後樂園ゆうえんち」時代の1992年から手がけてきたのが、お化け屋敷プロデューサーの五味弘文氏です。

2009年に出版した『人はなぜ恐怖するのか？』（メディアファクトリー）に続き、2012年6月10日には、東京ドームシティ アトラクションズのお化け屋敷の歴史や恐怖演出の秘訣、独自の恐怖論などを著した『お化け屋敷になぜ人は並ぶのか』（角川 one テーマ21）を出版。

恐怖を思索し、お客様が喜ぶお化け屋敷とはどういうものなのかを考え続ける五味弘文氏が、20周年の節目となるこの夏『お化け屋敷の人形倉庫』で、最新の恐怖と楽しさをお届けします。